

# 財 務 諸 表 等

令 和 3 年 度

( 第 8 期 事 業 年 度 )

自 令 和 3 年 4 月 1 日

至 令 和 4 年 3 月 31 日

地方独立行政法人 市立秋田総合病院

## 目 次

貸借対照表 .....	1
損益計算書 .....	3
キャッシュ・フロー計算書 .....	4
損失の処理に関する書類 .....	5
行政サービス実施コスト計算書 .....	6
注 記 事 項 .....	7
附 属 明 細 書	
(1) 固定資産の取得および処分並びに減価償却費の明細 .....	12
(2) たな卸資産の明細 .....	13
(3) 有価証券の明細 .....	14
(4) 長期借入金の明細 .....	16
(5) 移行前地方債償還債務の明細 .....	17
(6) 引当金の明細 .....	18
(7) 資本金の明細 .....	19
(8) 積立金等の明細および取崩しの明細 .....	20
(9) 運営費負担金債務および運営費負担金収益等の明細 .....	21
(10) 地方公共団体等からの財源措置の明細 .....	22
(11) 役員および職員の給与の明細 .....	24
(12) 開示すべきセグメント情報 .....	25
(13) 上記以外の主な資産、負債、費用および収益の明細 .....	26
(14) 医業費用および一般管理費の明細 .....	27
添 付 資 料	
決算報告書 .....	(別冊)
事業報告書 .....	(別冊)

# 貸 借 対 照 表

( 令和 4年 3月 31日現在 )

【地方独立行政法人 市立秋田総合病院】

(単位:円)

科 目	金 額	
資産の部		
I 固定資産		
1 有形固定資産		
土地		424,112,000
建物	5,492,173,628	
建物減価償却累計額	△ 2,233,138,712	3,259,034,916
構築物	74,389,789	
構築物減価償却累計額	△ 54,963,471	19,426,318
器械備品	3,941,928,919	
器械備品減価償却累計額	△ 3,184,291,234	757,637,685
車 両	15,017,462	
車両減価償却累計額	△ 9,164,128	5,853,334
建設仮勘定		10,300,552,204
その他有形固定資産	0	
その他有形固定資産減価償却累計額	0	0
有形固定資産合計		14,766,616,457
2 無形固定資産		
ソフトウェア		0
電話加入権		70,500
その他無形固定資産		0
無形固定資産合計		70,500
3 投資その他の資産		
投資有価証券		2,627,940,800
長期性預金		0
その他投資		14,190
投資その他の資産合計		2,627,954,990
固定資産合計		17,394,641,947
II 流動資産		
現金及び預金		3,185,198,578
医業未収金	1,788,395,924	
貸倒引当金	△ 32,044,000	1,756,351,924
未 収 金	80,965,121	80,965,121
有価証券		0
医 薬 品		33,601,684
診療材料		40,120
貯 蔵 品		5,580,249
前払費用		0
その他流動資産		629,000
流動資産合計		5,062,366,676
資 産 合 計		22,457,008,623

(単位:円)

科 目	金 額	
負債の部		
I 固定負債		
資産見返負債		
資産見返運営費負担金	104,750,976	
資産見返補助金等	285,316,833	
建設仮勘定見返運営費負担金	12,971,000	
資産見返寄附金	338,130	
資産見返物品受贈額	4,677,145	408,054,084
長期寄附金債務		0
長期借入金		7,872,342,528
移行前地方債償還債務		483,864,213
引当金		
退職給付引当金	3,729,062,619	3,729,062,619
長期リース債務		789,685
固定負債合計		12,494,113,129
II 流動負債		
運営費負担金債務		0
運営費交付金債務		0
寄附金債務		5,880,000
預り補助金等		0
短期借入金		0
1年以内返済予定長期借入金		176,001,156
1年以内返済予定移行前地方債償還債務		108,038,034
未払金		4,064,933,139
未払消費税等		5,119,900
預り金		40,261,968
引当金		
賞与引当金	344,112,000	344,112,000
短期リース債務		9,545,483
その他流動負債		0
流動負債合計		4,753,891,680
負債合計		17,248,004,809
純資産の部		
I 資本金		
設立団体出資金		3,979,916,678
資本金合計		3,979,916,678
II 利益剰余金		
前中期目標期間繰越積立金		1,289,385,946
目的積立金		0
当期未処分損失		△ 60,298,810
(うち当期総損失)	(	△ 60,298,810)
利益剰余金合計		1,229,087,136
純資産合計		5,209,003,814
負債純資産合計		22,457,008,623

# 損 益 計 算 書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

【地方独立行政法人 市立秋田総合病院】

(単位:円)

科 目	金 額	
営業収益		
医業収益		
入院収益	6,536,006,088	
外来収益	3,257,478,282	
その他医業収益	176,767,895	9,970,252,265
運営費負担金収益		740,822,000
運営費交付金収益		406,768,000
補助金等収益		391,884,633
寄附金収益		0
資産見返運営費負担金戻入		176,137,226
資産見返補助金等戻入		49,168,624
資産見返寄附金戻入		90,168
資産見返物品受贈額戻入		2,208,779
その他営業収益		0
営業収益合計		11,737,331,695
営業費用		
医業費用		
給与費	5,987,524,899	
材料費	2,907,502,365	
経費	1,618,874,932	
減価償却費	481,645,031	
資産減耗費	2,545,336	
研究研修費	18,982,276	11,017,074,839
一般管理費		
給与費	301,616,466	
経費	106,655,469	
減価償却費	2,709,115	410,981,050
営業費用合計		11,428,055,889
営業利益		309,275,806
営業外収益		
運営費負担金収益		11,744,000
補助金等収益		0
財務収益		19,168,705
その他営業外収益		66,799,406
営業外収益合計		97,712,111
営業外費用		
財務費用		33,620,302
控除対象外消費税		455,855,750
雑損失		15,425,200
営業外費用合計		504,901,252
経常損失		△ 97,913,335
臨時利益		
過年度損益修正益		45,267,166
その他臨時利益		0
臨時利益合計		45,267,166
臨時損失		
固定資産売却損		0
固定資産除却損		45
過年度損益修正損		7,652,596
その他臨時損失		0
臨時損失合計		7,652,641
当期純損失		△ 60,298,810
当期総損失		△ 60,298,810

# キャッシュ・フロー計算書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

【地方独立行政法人市立秋田総合病院】

(単位:円)

科 目	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	
材料の購入による支出	△ 3,164,468,882
人件費支出	△ 6,245,703,475
その他業務支出	△ 1,903,265,457
医業収入	9,385,048,220
運営費負担金収入	752,566,000
運営費交付金収入	406,768,000
補助金等収入	529,584,530
寄附金収入	1,000,000
その他業務収入	62,916,910
小計	△ 175,554,154
利息受取額	19,168,705
利息支払額	△ 33,620,302
業務活動によるキャッシュ・フロー	△ 190,005,751
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△ 5,374,574,622
その他投資活動による支出	0
有価証券の取得による支出	0
定期預金の償還による収入	0
運営費負担金収入	168,237,000
補助金等収入	197,706,600
有価証券の償還による収入	55,466,400
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,953,164,622
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金による収入	5,185,900,000
長期借入金の償還による支出	△ 137,385,293
移行前地方債償還債務の償還による支出	△ 106,854,832
その他財務活動による収入	0
リース債務の返済による支出	△ 11,388,427
短期借入金による収入	4,500,000,000
短期借入金の返済による支出	△ 4,500,000,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,930,271,448
IV 資金増加額(△は資金減少額)	△ 212,898,925
V 資金期首残高	3,398,097,503
VI 資金期末残高	3,185,198,578

## 損失の処理に関する書類

（令和4年6月27日）

【地方独立行政法人市立秋田総合病院】

（単位：円）

科 目	金 額
I 当期末処理損失	△ 60,298,810
当期総損失	△ 60,298,810
II 損失処理額	
前中期目標期間繰越積立金取崩額	60,298,810
施設整備等目的積立金取崩額	0
	60,298,810

# 行政サービス実施コスト計算書

(令和 3年 4月 1日 ~ 令和 4年 3月 31日)

【地方独立行政法人市立秋田総合病院】

(単位:円)

科 目	金 額		
I 業務費用			
(1) 損益計算書上の費用			
医業費用	11,017,074,839		
一般管理費	410,981,050		
営業外費用	504,901,252		
臨時損失	7,652,641	11,940,609,782	
(2) (控除) 自己収入等			
医業収益	△ 9,970,252,265		
寄附金収益等	△ 2,298,947		
営業外収益	△ 85,968,111		
臨時利益	△ 45,267,166		
その他収益	0	△ 10,103,786,489	
業務費用合計			1,836,823,293
(うち減価償却費充当補助金相当額)			△ 225,305,850
II 引当外退職給付増加見積額	9,170,847		9,170,847
III 機会費用			
地方公共団体出資等の機会費用	8,357,825		8,357,825
IV 行政サービス実施コスト			1,854,351,965



## 注 記 事 項

### I 重要な会計方針

#### 1 運営費負担金収益および運営費交付金収益の計上基準

期間進行基準を採用しております。

ただし、地方債利息等償還金については費用進行基準を採用しております。

#### 2 減価償却の会計処理方法

##### (1) 有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりです。

建 物	4年～38年
構築物	3年～37年
機器備品	2年～21年
車 両	2年～5年

##### (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

#### 3 退職給付に係る引当金および見積額の計上基準

役職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については期間定額基準によっております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における役職員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

なお、行政サービス実施コスト計算書における引当外退職給付増加見積額は、会計基準第 87 により引当対象外とされた出向職員に関して、会計基準第 36 に基づき計算された退職給付引当金の当期増加額を計上しております。

#### 4 貸倒引当金の計上基準

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### 5 賞与引当金の計上基準

役職員に対して支給する賞与に備えるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

- 6 有価証券の評価基準および評価方法  
満期保有目的債券は償却原価法によっております。
- 7 たな卸資産の評価基準および評価方法  
医薬品、診療材料および貯蔵品とも、最終仕入原価法に基づく低価法によっております。
- 8 行政サービス実施コスト計算書における機会費用の計上方法  
令和4年3月末における10年国債利回りを参考に0.21%で計算しております。
- 9 リース取引の処理方法  
リース料総額が300万円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
- 10 消費税等の会計処理  
消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## II 損益計算書関係

- 1 補助金等収益には、新型コロナウイルス感染症関連事業の補助金も含まれております。

## III キャッシュ・フロー計算書関係

資金の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金及び預金勘定	<u>3,185,198,578 円</u>
資金期末残高	<u>3,185,198,578 円</u>

## IV オペレーティング・リース取引関係

該当ありません。

## V 金融商品関係

### 1 金融商品の状況に関する事項

当法人は、資金運用については預金、国債、地方債および政府保証債等に限定し、また、資金調達については、設立団体からの借入に限定しております。

当法人が保有する金融資産は主として診療報酬債権であり、このうち患者に対する医業未収金に係る信用リスクは、債権管理規程に沿ってリスク管理を行っております。

### 2 金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：円)

区分	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	3,185,198,578	3,185,198,578	0
(2) 投資有価証券	2,627,940,800	2,707,659,672	79,718,872
(3) 未収金	1,837,317,045	1,837,317,045	0
(4) 長期借入金	(8,048,343,684)	(7,950,970,267)	(△97,373,417)
(5) 移行前地方債償還債務	(591,902,247)	(629,887,135)	(37,984,888)
(6) 未払金	(4,064,933,139)	(4,064,933,139)	(0)

(注1) 負債で計上されているものは( )で表示しております。

(注2) 金融商品の時価の算出方法

(1) 現金及び預金、(3) 未収金、(6) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 投資有価証券の時価については、取引金融機関から提示された価格によっております。

(4) 長期借入金、(5) 移行前地方債償還債務

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算出する方法によっております。

なお、長期借入金および移行前地方債償還債務には、1年以内返済予定の金額を含めて記載しております。

## VI 退職給付関係

### 1 採用している退職給付制度の概要

当法人は、職員の退職給付に充てるため、非積立型の退職一時金制度を採用している。当該制度では、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給している。

### 2 確定給付制度

#### (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	3,524,938,114 円
勤務費用	240,300,018 円
利息費用	35,249,381 円
数理計算上の差異の当期発生額	△21,533,923 円
過去勤務費用の当期発生額	0 円
退職給付の支払額	△96,208,755 円
期末における退職給付債務	3,682,744,835 円

#### (2) 退職給付債務と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

非積立型制度の未積立退職給付債務	3,682,744,835 円
未認識数理計算上の差異	△22,037,382 円
未認識過去勤務費用	68,355,166 円
退職給付引当金	3,729,062,619 円

#### (3) 退職給付に関連する損益

勤務費用	240,300,018 円
利息費用	35,249,381 円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	11,438,494 円
過去勤務費用の当期の費用処理額	△11,392,527 円
合計	275,595,366 円

注) 損益計算書との差額 960,204 円は引当金計上対象外職員の退職給付手当の支給額です。

#### (4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎 (加重平均で表している)

割引率	1.0%
-----	------

## VII 重要な債務負担行為

当事業年度末までに契約を締結し、翌事業年度以降に支払いが発生する重要なものは、以下のとおりです。

(単位：円)

契約内容	契約金額	翌事業年度以降の 支払金額
物品調達管理業務および手術室支援業務委託	129,410,600	29,275,400
医用画像保存通信システム保守管理業務委託	49,775,000	11,226,600
施設建物管理業務委託	88,545,600	29,515,200
清掃業務委託	143,550,000	47,850,000
医事業務委託	310,028,400	103,342,800
マルチスライス CT 装置 SOMATOMgo. TOP 保守委託	58,080,000	58,080,000
物品調達管理業務および手術室支援業務委託	294,030,000	294,030,000
施設総合管理業務委託	2,057,000,000	2,057,000,000
カーテン賃貸借	56,027,400	56,027,400
電子カルテシステム等構築業務	577,500,000	577,500,000
検体検査システム等構築業務委託	49,665,000	49,665,000
ICU・ER システム構築業務委託	57,750,000	57,750,000
脳波・筋電図システム構築業務委託	41,800,000	41,800,000
麻酔記録システム構築業務委託	49,984,000	49,984,000
生化学自動分析装置 2セット	42,790,000	42,790,000
臨床検査科関連機器① 一式	56,980,000	56,980,000
透析装置 一式	40,667,000	40,667,000
手術用器材洗浄滅菌関連装置 一式	41,745,000	41,745,000
映像記録システム 一式	104,500,000	104,500,000
局所排気付関連装置 一式	41,375,125	41,375,125
放射線治療システム 一式	654,500,000	654,500,000
乳房用 X 線診断装置 一式	60,500,000	60,500,000
放射線科関連機器 一式	709,500,000	709,500,000
汎用 X 線透視診断装置 2セット	95,700,000	95,700,000
汎用 X 線診断装置 2セット	106,700,000	106,700,000
手術環境整備関連機器 一式	158,400,000	158,400,000
開院支援業務委託	131,466,960	19,001,400
新病院建設工事	14,894,259,600	5,333,929,600
新病院建設工事に伴う工事管理等業務委託	175,899,900	19,750,900
新病院建設に伴う造作カウンター工事	143,550,000	57,420,000
新病院移転業務委託	165,000,000	165,000,000

# 財 務 諸 表

(附屬明細書)

附属明細書

(1)固定資産の取得および処分並びに減価償却費の明細

(単位:円)

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額			差引当期末残高	摘要
						当期償却額	当期損益内	当期損益外				
有形固定資産 (償却費損益内)	建物	5,476,033,628	16,140,000	0	5,492,173,628	2,233,138,712	202,927,145	0	0	0	3,259,034,916	
	構築物	74,389,789	0	0	74,389,789	54,963,471	6,325,545	0	0	0	19,426,318	
	器械備品	3,745,287,262	224,717,020	28,075,363	3,941,928,919	3,184,291,234	272,628,789	0	0	0	757,637,685	
	車両	11,952,100	3,250,000	184,638	15,017,462	9,164,128	2,472,667	0	0	0	5,853,334	
	計	9,307,662,779	244,107,020	28,260,001	9,523,509,798	5,481,557,545	484,354,146	0	0	0	4,041,952,253	
有形固定資産 (償却費損益外)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
非償却資産	土地	424,112,000	0	0	424,112,000	0	0	0	0	0	424,112,000	
	建設仮勘定	2,308,874,041	8,031,831,251	40,153,088	10,300,552,204	0	0	0	0	0	10,300,552,204	
	その他有形固定資産	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	2,732,986,041	8,031,831,251	40,153,088	10,724,664,204	0	0	0	0	0	10,724,664,204	
有形固定資産 合計	土地	424,112,000	0	0	424,112,000	0	0	0	0	0	424,112,000	
	建物	5,476,033,628	16,140,000	0	5,492,173,628	2,233,138,712	202,927,145	0	0	0	3,259,034,916	
	構築物	74,389,789	0	0	74,389,789	54,963,471	6,325,545	0	0	0	19,426,318	
	器械備品	3,745,287,262	224,717,020	28,075,363	3,941,928,919	3,184,291,234	272,628,789	0	0	0	757,637,685	(注1)
	車両	11,952,100	3,250,000	184,638	15,017,462	9,164,128	2,472,667	0	0	0	5,853,334	
	建設仮勘定	2,308,874,041	8,031,831,251	40,153,088	10,300,552,204	0	0	0	0	0	10,300,552,204	(注2)
	その他有形固定資産	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	12,040,648,820	8,275,938,271	68,413,089	20,248,174,002	5,481,557,545	484,354,146	0	0	0	14,766,616,457	
無形固定資産	ソフトウェア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	電話加入権	70,500	0	0	70,500	0	0	0	0	0	70,500	
	その他無形固定資産	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	70,500	0	0	70,500	0	0	0	0	0	70,500	
投資その他 の資産	投資有価証券	2,683,407,200	0	55,466,400	2,627,940,800	0	0	0	0	0	2,627,940,800	(注3)
	長期性預金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他投資	14,190	0	0	14,190	0	0	0	0	0	14,190	リサイクル預託金
	計	2,683,421,390	0	55,466,400	2,627,954,990	0	0	0	0	0	2,627,954,990	

(注1) 当期増加額の主なものは、X線透視診断装置 54,290,000円、全身麻酔器2セット 16,400,000円などです。

(注2) 当期増加額の主なものは、新病院建設事業費などです。

(注3) 当期減少額は、定時償還額です。

(2)たな卸資産の明細

(単位:円)

種類	期首残高	当期増加額		当期減少額		期末残高	摘要
		当期購入・ 製造・振替	その他	払出・振替	その他(注)		
医薬品	49,046,474	1,598,521,889		1,611,449,712	2,516,967	33,601,684	
診療材料	37,167	1,279,778,953		1,279,750,111	25,889	40,120	
貯蔵品	5,259,069	80,737,725		80,414,065	2,480	5,580,249	
計	54,342,710	2,959,038,567		2,971,613,888	2,545,336	39,222,053	

(注) 廃棄による棚卸資産減耗費を記載しています。



## (3) 有価証券の明細

投資その他の資産として計上された有価証券

	種類及び銘柄	取得価額	券面総額	貸借対照表計上額	当期費用に含まれた 評価差額	摘要
満期保有 目的債券	広島県平成26年度第2回 公募公債	99,990,000	100,000,000	99,990,000		償還日 R6.7.24 利率0.61%
	第136回共同発行市場 公募地方債	200,000,000	200,000,000	200,000,000		償還日 R6.7.25 利率0.611%
	第12回大阪府公募公債(20 年)	300,000,000	300,000,000	300,000,000		償還日 R16.9.26 利率1.453%
	北九州市第18回20年公募公債	100,000,000	100,000,000	100,000,000		償還日 R16.10.20 利率1.376%
	北海道平成26年度第12回20 年公募公債(20年)	100,000,000	100,000,000	100,000,000		償還日 R16.12.26 利率1.303%
	兵庫県第1回20年公募公債 (定時償還)	142,140,000	142,140,000	142,140,000		償還日 R17.5.25 利率0.696%
	北海道平成27年度第4回 公募公債(20年)	100,000,000	100,000,000	100,000,000		償還日 R17.6.29 利率1.357%
	札幌市平成27年度第3回 公募公債(20年)	100,000,000	100,000,000	100,000,000		償還日 R17.7.31 利率1.211%
	第149回共同発行市場 公募地方債	100,000,000	100,000,000	100,000,000		償還日 R7.8.25 利率0.500%
	宮城県公募公債第1回1号 (20年定時償還)	140,000,000	140,000,000	140,000,000		償還日 R17.12.14 利率0.550%
	北海道平成27年度第12回公 募公債(20年)	100,000,000	100,000,000	100,000,000		償還日 R17.12.25 利率1.156%

	種類及び銘柄	取得価額	券面総額	貸借対照表計上額	当期費用に含まれた 評価差額	摘要
満期保有 目的債券	新潟県公債第27回4号(定時償還)	85,000,000	85,000,000	85,000,000		償還日 R18.4.30 利率0.250%
	札幌市平成28年度第1回公募公債(30年・定時償還)	81,667,400	81,667,400	81,667,400		償還日 R28.6.20 利率0.407%
	北海道平成28年度第3回公募公債(20年)	100,000,000	100,000,000	100,000,000		償還日 R18.6.30 利率0.363%
	横浜市第12回30年公募公債(定時償還)	81,667,400	81,667,400	81,667,400		償還日 R28.7.13 利率0.230%
	静岡県第5回公募公債(定時償還)	76,330,000	76,330,000	76,330,000		償還日 R18.6.20 利率0.150%
	北九州市第3回公募公債(定時償還)	83,000,000	83,000,000	83,000,000		償還日 R28.10.6 利率0.387%
	兵庫県第2回30年公募公債(定時償還)	84,520,000	84,520,000	84,520,000		償還日 R28.9.13 利率0.450%
	島根県平成28年度第2回公募公債(20年)	100,000,000	100,000,000	100,000,000		償還日 R18.9.30 利率0.506%
	千葉県第21回20年公募公債	100,000,000	100,000,000	100,000,000		償還日 R18.10.15 利率0.424%
	兵庫県第4回20年公募公債(定時償還)	78,960,000	78,960,000	78,960,000		償還日 R19.1.30 利率0.348%
	宮城県公募公債第2回2号(20年定時償還)	75,000,000	75,000,000	75,000,000		償還日 R19.2.27 利率0.397%
	秋田県平成28年度第1回公募公債	100,000,000	100,000,000	100,000,000		償還日 R9.3.25 利率0.205%
	神戸市令和2年度第1回公募公債(30年)	99,666,000	100,000,000	99,666,000		償還日 R30.3.18 利率0.517%
	計				2,627,940,800	
貸借対照表計上額合計				<b>2,627,940,800</b>		

## (4)長期借入金の明細

(単位:円)

区 分	期首残高	当期増加	当期減少	期末残高	平均利率(%)	返済期限	摘要
施設整備事業貸付金	58,081,284	—	14,476,811	43,604,473	0.2%	R7.3	
施設整備事業貸付金	57,335,825	—	11,444,248	45,891,577	0.1%	R8.3	
医療機械器具整備事業貸付金	22,378,356	—	22,378,356	0	0.01%	R4.3	
施設整備事業貸付金	3,000,450	—	3,000,450	0	0.01%	R4.3	
医療機械器具整備事業貸付金	45,204,519	—	22,601,129	22,603,390	0.01%	R5.3	
施設整備事業貸付金	19,722,958	—	9,860,986	9,861,972	0.01%	R5.3	
医療機械器具整備事業貸付金	86,704,335	—	28,898,555	57,805,780	0.01%	R6.3	
施設整備事業貸付金	12,501,250	—	6,250,312	6,250,938	0.01%	R5.3	
施設整備事業貸付金	37,800,000	—	0	37,800,000	0.5%	R31.3	
施設整備事業貸付金	773,000,000	—	0	773,000,000	0.3%	R32.3	H30年度 繰越分
医療機械器具整備事業貸付金	73,900,000	—	18,474,446	55,425,554	0.002%	R7.3	
施設整備事業貸付金	147,300,000	—	0	147,300,000	0.3%	R32.3	
施設整備事業貸付金	109,900,000	—	0	109,900,000	0.5%	R33.3	R1年度 繰越分
施設整備事業貸付金	1,297,200,000	—	0	1,297,200,000	0.5%	R33.3	
医療機械器具整備事業貸付金	255,800,000	—	0	255,800,000	0.003%	R8.3	
施設整備事業貸付金	—	442,700,000	0	442,700,000	0.7%	R34.3	R2年度 繰越分
施設整備事業貸付金	—	4,590,100,000	0	4,590,100,000	0.7%	R34.3	
医療機械器具整備事業貸付金	—	153,100,000	0	153,100,000	0.1%	R9.3	
計	2,999,828,977	5,185,900,000	137,385,293	8,048,343,684			

## (5)移行前地方債償還債務の明細

(単位:円)

銘 柄	期首残高	当期増加	当期減少	期末残高	利率(%)	償還期限	摘要
財務省	18,915,511	—	2,195,212	16,720,299	2.1%	R11.3	
財務省	197,767,135	—	19,101,146	178,665,989	2.0%	R12.9	
財務省	351,010,973	—	32,637,811	318,373,162	1.6%	R13.3	
地方公共団体金融機構	48,020,336	—	23,962,196	24,058,140	0.4%	R5.3	
地方公共団体金融機構	20,965,807	—	8,348,660	12,617,147	0.6%	R5.9	
地方公共団体金融機構	62,077,317	—	20,609,807	41,467,510	0.4%	R6.3	
計	698,757,079	—	106,854,832	591,902,247			

## (6)引当金の明細

(単位:円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高	摘要
			目的使用	その他		
退職給付引当金	3,549,676,008	275,595,366	96,208,755		3,729,062,619	
賞与引当金	349,727,000	344,112,000	349,727,000		344,112,000	
貸倒引当金	25,634,000	9,120,190	2,710,190		32,044,000	
計	3,925,037,008	628,827,556	448,645,945		4,105,218,619	

(7)資本金の明細

(単位:円)

区分		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘要
資本金	設立団体出資金	3,979,916,678	0	—	3,979,916,678	
	計	3,979,916,678	0	—	3,979,916,678	

(8)積立金等の明細および取崩しの明細

ア 積立金等の明細

(単位:円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘要
前中期目標期間繰越積立金	1,920,283,678	0	630,897,732	1,289,385,946	(注1)
目的積立金	104,293,976	0	104,293,976	0	(注1)
計	2,024,577,654	0	735,191,708	1,289,385,946	

(注1)当期減少額は、前事業年度の損失の処理に伴って計上したものです。

イ 積立金等の取崩しの明細

(単位:円)

区分	金額	摘要
その他	前中期目標期間繰越積立金	630,897,732 (注2)
	目的積立金	104,293,976 (注2)
	計	735,191,708

(注2)前事業年度の損失の処理に伴って取崩し計上した金額であります。

## (9)運営費負担金債務および運営費負担金収益等の明細

## ア 運営費負担金債務

(単位:円)

交付年度	期首残高	負担金 当期交付額	当期振替額				期末残高
			運営費負担金 収益	資産見返 運営費負担金	資本剰余金	小計	
令和3年度	0	920,803,000	752,566,000	168,237,000	0	920,803,000	0
合計	0	920,803,000	752,566,000	168,237,000	0	920,803,000	0

## イ 運営費負担金収益

業務等区分	令和3年度	合計
期間進行基準	740,822,000	740,822,000
費用進行基準	11,744,000	11,744,000
合計	752,566,000	752,566,000

## ウ 運営費交付金債務

交付年度	期首残高	負担金 当期交付額	当期振替額				期末残高
			運営費交付金 収益	資産見返 運営費交付金	資本剰余金	小計	
令和3年度	0	406,768,000	406,768,000	0	0	406,768,000	0
合計	0	406,768,000	406,768,000	0	0	406,768,000	0

## エ 運営費交付金収益

業務等区分	令和3年度	合計
期間進行基準	406,768,000	406,768,000
合計	406,768,000	406,768,000



## (10)地方公共団体等からの財源措置の明細

## ア 補助金等の明細

(単位:円)

区分	当期交付額	左の会計処理内訳					摘要
		建設仮勘定 補助金等	資産見返 補助金等	資産剰余金	長期預り 補助金等	収益計上	
がん診療機能等強化事業	8,500,000					8,500,000	
感染症外来協力医療機関設備 整備事業	161,000					161,000	
新型インフルエンザ等患者入院 医療機関設備整備費等補助金	402,000					402,000	
新型コロナウイルス感染症感染 拡大防止・医療提供体制確保支 援事業	3,105,000					3,105,000	
新型コロナウイルス感染症感染 拡大防止継続支援補助金	100,000					100,000	
新型コロナウイルス感染症患者 入院医療機関病床確保支援事 業	193,638,000					193,638,000	
新型コロナウイルス感染症患者 等入院受入医療機関緊急支援 事業	16,937,000					16,937,000	
新型コロナウイルス感染症による 小学校休業等対応助成金	125,133					125,133	
臨床研修費等補助金(医師)	13,793,300					13,793,300	
臨床研修費等補助金(協力型た すき)	806,000					806,000	
秋田県産科医等確保支援事業 費補助金	230,000					230,000	
秋田県新人看護職員研修事業 補助金	269,000					269,000	

区分	当期交付額	左の会計処理内訳					摘要
		建設仮勘定 補助金等	資産見返 補助金等	資産剰余金	長期預り 補助金等	収益計上	
がん医療従事者育成支援事業 補助金	300,000					300,000	
新型コロナウイルスワクチン個別 接種促進支援金	3,106,200					3,106,200	
新型コロナウイルスワクチン個別 接種促進支援金	200,000					200,000	
新型コロナウイルス感染症患者 受入医療機関等支援事業応援 金	137,000,000					137,000,000	
病児保育事業補助金	13,212,000					13,212,000	
地域医療構想不整脈治療体制 整備事業	12,833,000		12,833,000				
保健衛生施設等施設・設備整備 費国庫補助金(感染症指定医療 機関施設整備)	9,206,000		9,206,000				
保健衛生施設等施設・設備整備 費国庫補助金(精神科病院施設 整備)	36,507,000		36,507,000				
感染症外来協力型医療機関設 備整備費補助金	18,164,000		18,164,000				
新型インフルエンザ等患者入院 医療機関設備整備費等補助金	2,123,000		2,123,000				
新型コロナウイルス感染症感染 拡大防止・医療提供体制確保支 援事業	5,945,000		5,945,000				
合計	476,662,633	0	84,778,000	0	0	391,884,633	

(注) 当期交付額には、期末未収額 166,187,133円が含まれております。

## (11)役員および職員の給与の明細

(単位:千円、人)

区分	報酬または給与		退職手当	
	支給額	支給人数	支給額	支給人数
役員	( 1,200 )	( 2 )	( 0 )	( 0 )
	82,536	6	0	0
職員	( 62,170 )	( 17 )	( 0 )	( 0 )
	3,704,185	569	97,169	28
合計	( 63,370 )	( 19 )	( 0 )	( 0 )
	3,786,721	575	97,169	28

## (注1)

非常勤・有期職員については、外数として( )内に記載しています。  
また、支給人数については、年間平均支給人数で記載しています。

## (注2)

役員報酬については、「地方独立行政法人市立秋田総合病院役員の報酬に関する規程」に基づき支給しています。  
職員給与および退職給与については、「地方独立行政法人市立秋田総合病院職員給与規程」および「地方独立行政法人市立秋田総合病院職員の退職手当に関する規程」に基づき支給しています。

## (注3)

上記明細には、法定福利費は含めていません。

(12)開示すべきセグメント情報

当法人は単一セグメントにより事業を実施しているため、記載を省略しております。

(13)上記以外の主な資産、負債、費用および収益の明細

現金および預金の内訳

(単位:円)

区分	期末残高	備考
現金	3,295,652	
普通預金	3,181,902,926	
定期預金	0	
計	3,185,198,578	

## (14)医業費用および一般管理費の明細

(単位:円)

科目	金額	
医業費用		
給与費		
給与	2,066,476,483	
手当等	1,241,407,350	
賞金	947,632,659	
報酬	0	
法定福利費	819,917,726	
退職給付費用	267,221,681	
賞与引当金繰入額	644,869,000	5,987,524,899
材料費		
薬品費	1,611,449,712	
診療材料費	1,279,750,111	
給食材料費	1,584,725	
医療消耗備品費	14,717,817	2,907,502,365
経費		
厚生福利費	7,181,932	
報償費	377,020	
旅費交通費	1,567,266	
消耗品費	62,907,966	
消耗備品費	5,573,832	
職員被服費	2,771,877	
光熱水費	131,289,396	
燃料費	78,614,162	
会議費	58,119	
食糧費	672,315	
印刷製本費	4,551,260	
修繕費	78,605,079	
保険料	28,078,715	
租税公課	103,800	
賃借料	138,205,340	
委託料	1,014,389,519	
手数料	28,101,038	
通信運搬費	13,932,197	
諸会費	9,690,323	
交際費	0	
貸倒損失	0	
貸倒引当金繰入額	9,120,190	
雑費	3,083,586	1,618,874,932
減価償却費		
建物減価償却費	201,760,775	
構築物減価償却費	6,289,187	
器械備品減価償却費	271,122,402	
車両減価償却費	2,472,667	
その他有形固定資産減価償却費	0	
無形固定資産減価償却費	0	481,645,031
資産減耗費		
たな卸資産減耗費	2,545,336	2,545,336
研究研修費		
研究材料費	0	
図書費	10,382,944	
研究旅費	585,229	
研究雑費	8,014,103	18,982,276
医業費用合計		11,017,074,839

(単位:円)

科目	金額	
一般管理費		
給与費		
給与	98,677,596	
手当等	34,204,717	
賃金	64,106,047	
報酬	1,200,000	
法定福利費	45,124,217	
退職給付費用	9,333,889	
賞与引当金繰入額	<u>48,970,000</u>	<u>301,616,466</u>
経費		
旅費交通費	0	
消耗品費	63,000	
消耗備品費	0	
職員被服費	467,419	
光熱水費	758,980	
燃料費	454,458	
印刷製本費	0	
賃借料	3,366,815	
委託料	93,887,055	
手数料	2,633,395	
通信運搬費	503,063	
諸会費	2,549,222	
交際費	0	
雑費	1,550,170	
厚生福利費	<u>421,892</u>	<u>106,655,469</u>
減価償却費		
建物減価償却費	1,166,370	
構築物減価償却費	36,358	
器械備品減価償却費	1,506,387	
車両減価償却費	0	
その他有形固定資産減価償却費	0	
無形固定資産減価償却費	<u>0</u>	<u>2,709,115</u>
一般管理費合計		<u><u>410,981,050</u></u>

( 別冊 )

# 決 算 報 告 書

令 和 3 年 度

( 第 8 期事業年度 )

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 3 1 日

地方独立行政法人 市立秋田総合病院



## 令和 3 年 度 決 算 報 告 書

【地方独立行政法人 市立秋田総合病院】

( 単位 : 円 )

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算額-予算額)	備 考
収入				
営業収益	11,357,212,000	11,527,607,668	170,395,668	
医業収益	10,474,140,000	9,988,133,035	△ 486,006,965	入院・外来等の減による
運営費負担金等	835,351,000	1,147,590,000	312,239,000	運営費交付金の増による
補助金等	47,721,000	391,884,633	344,163,633	補助金の増による(コロナ関連)
営業外収益	94,038,000	104,276,319	10,238,319	
運営費負担金	12,910,000	11,744,000	△ 1,166,000	
補助金等	0	0	0	
その他	81,128,000	92,532,319	11,404,319	科目等の変更増による
資本収入	8,272,140,000	9,938,915,000	1,666,775,000	
長期借入金	8,103,900,000	5,185,900,000	△ 2,918,000,000	新病院建設事業にかかる次年度繰越額による
運営費負担金等	168,240,000	168,237,000	△ 3,000	
その他	0	4,584,778,000	4,584,778,000	補助金の増(コロナ関連)および短期借入による
計	19,723,390,000	21,570,798,987	1,847,408,987	
支出				
営業費用	11,186,697,000	11,231,009,879	44,312,879	
医業費用	10,682,171,000	10,811,992,889	129,821,889	
給与費	5,978,712,000	5,991,723,820	13,011,820	手当等の増による
材料費	2,755,253,000	3,037,062,448	281,809,448	薬品費等の増による
経費	1,905,491,000	1,763,266,684	△ 142,224,316	消耗品費・光熱水費等の減による
研究研修費	42,715,000	19,939,937	△ 22,775,063	研究旅費等の減による
一般管理費	504,526,000	419,016,990	△ 85,509,010	
給与費	360,378,000	302,008,507	△ 58,369,493	建設仮勘定等の減による
経費	144,148,000	117,008,483	△ 27,139,517	消耗品費・消耗備品費等の減による
営業外費用	55,713,000	49,045,502	△ 6,667,498	
資本支出	8,417,706,000	9,631,263,097	1,213,557,097	
建設改良費	8,173,465,000	4,887,022,972	△ 3,286,442,028	新病院建設事業にかかる次年度繰越額による
償還金	244,241,000	4,744,240,125	4,499,999,125	短期借入の返済による
計	19,660,116,000	20,911,318,478	1,251,202,478	

(注) 損益計算書の計上額と決算額の集計区分等の相違の概要は、以下のとおりであります。

- (1) 損益計算書において計上されている現金収入を伴わない収益および現金支出を伴わない費用は含んでおりません。
- (2) 上記数値は消費税等込みの金額を記載しております。
- (3) 長期借入金および建設改良費のカッコ書きは、新病院建設事業にかかる次年度への繰越金額であります。

( 別冊 )

# 事業報告書

令和 3 年 度

( 第 8 期事業年度 )

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 3 1 日

地方独立行政法人 市立秋田総合病院

## 地方独立行政法人市立秋田総合病院事業報告書

### 「地方独立行政法人市立秋田総合病院の概要」

#### 1 現況（令和3年4月1日現在）

##### (1) 法人名

地方独立行政法人市立秋田総合病院

##### (2) 所在地

秋田市川元松丘町4番30号

##### (3) 役員の状況

役職	氏名	備考
理事長	伊藤誠司	院長
副理事長	小松眞史	
理事	佐藤 勤	副院長
理事	木村善明	副院長
理事	庄子公子	看護部長
理事	本間 斗	事務局長
監事	田中伸一	弁護士
監事	堀井照重	公認会計士

##### (4) 設置・運営する病院

名称 市立秋田総合病院

所在地 秋田市川元松丘町4番30号

病床数 一般病床374床、精神病床60床、結核病床22床  
計456床

##### (5) 職員数

865人（正職員561人、任期付および再雇用職員22人、嘱託職員104人、臨時職員32人、パート職員146人）

#### 2 市立秋田総合病院の基本的な目標等

市立秋田総合病院は、地域の中核的な公的医療機関として、がん診療をはじめとした高度・専門医療や救急医療、小児・周産期医療など、地域に必要な医療を継続的に提供することにより、市民の健康の維持および増進に努めます。

また、将来にわたり安定した質の高い医療を提供できるように経営改善に向けた

取り組みを積極的に行い、経営基盤の更なる強化を図ります。

## 「全体的な状況」

### 1 法人運営の総括と課題等

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症への対応として、帰国者接触者外来と発熱外来を継続し、新型コロナウイルス感染症患者の入院病床の整備等、地域医療の確保に努め、帰国者接触者外来・発熱外来受診者数739名、入院患者数147名、総検査数10,439件と行政検査への協力など感染症の診療に寄与しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人の集合する事業の多くを中止せざるを得ませんでした。地域の中核病院として診療の継続に努め、地域住民に対して急性期医療を提供しました。

地方独立行政法人設立後8年目の令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響がありながら、引き続き中期目標の達成に向けて、結核・精神・救急等の政策的な医療やがん診療をはじめとする高度な医療などを総合的に提供し、地域の中核的な公的医療機関としての役割を果たしました。

入院延患者数は、111,947人（1日平均306人）、外来延患者数は、250,776人（1日平均1,036人）となり、前年度に比較して入院が4.5%、外来では1.1%増加となりました。病床利用率は、全病床で68.8%、一般病床で75.2%となり、前年度に比較して全病床で4.4ポイント、一般病床で6.6ポイントの増加となりました。

市民の医療ニーズに応えるため、法人の裁量で効率的な病院経営が可能となる地方独立行政法人のメリットを活かし、優れた人材の確保・育成など診療機能の充実を図りました。

この結果、概ね年度計画を達成できましたが、収支面においては、新型コロナウイルス感染症の影響で赤字となりました。

病院改築については、令和4年10月の開院に向けて計画的に本体工事建設を進めました。

## 「項目別の状況」

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

### 1 良質で安全な医療の提供

#### (1) 高度・専門医療の提供

##### ア がんへの対応

秋田県がん診療連携推進病院として、がんに対する難易度の高い外科治療をはじめ、非外科的治療、放射線治療および化学療法を継続して実施しました。

がん登録室においては、2014年（H26）のがん登録症例の予後調査をすすめ、5大がんの5年相対生存率を算出しました。

がん患者に対する相談、カウンセリングなどに積極的に取り組みました。がん診療の質を向上させるために、緩和ケアチーム、栄養サポートチームの関与ならびに歯科口腔ケアなどにも積極的に取り組みました。緩和ケアチームでは、チーム関与の増加のみならず算定件数増加にも努めました。外科手術件数、胸腔鏡・腹腔鏡手術件数、内視鏡手術件数、院内がん登録件数、肝胆膵がん手術件数は下記のとおりであり、がんに対する合計の手術件数は令和2年度の511件から580件と増加しました。令和3年5月からは大腸がん肝転移外来を開設しました。

また、HBOC（遺伝性乳がん・卵巣がん）疾患に対する検査および診療体制を継続し、患者のプライバシーに配慮した運用を継続しました。

- ・がん手術数 580件（前年度511件）
  - 内訳 外科的手術 292件（前年度339件）
    - 胸腔鏡・腹腔鏡手術 105件（前年度72件）
    - 内視鏡手術 183件（前年度100件）
- ・化学療法件数 3,494件（前年度3,091件）
- ・放射線治療件数（体外照射法） 1,939件（前年度2,873件）
- ・化学療法延べ患者数 686人（前年度617人）
- ・放射線治療延べ患者数（体外照射法） 78人（前年度110人）
- ・がんセンターボード（※）開催数 10回（前年度10回）
- ・院内がん登録 671件（前年度1,164件）

- ・緩和ケア外来受診者数 44人（前年度11人）
- ・がん患者リハビリテーション 2,420単位（前年度2,975単位）
- ・周術期口腔機能管理料算定件数 1,091件（前年度937件）
- ・肝胆膵手術 58件（前年度66件）

※カンサーボード：がん医療に携わる専門職が集まり、個々の患者の状態に応じた適切な治療を検討する場

#### イ 脳卒中への対応

夜間休日を含めた24時間CT・MRI検査体制を継続し、超急性期脳卒中加算の届出施設として急性期の脳卒中患者に対する救急体制を維持しました。

また、入院早期からリハビリテーションを積極的に実施し、急性期治療を終了した患者については、地域包括ケア病棟で在宅復帰支援を行いました。

併せて、医療機能分化による地域医療機関への逆紹介にも努めました。

- ・脳梗塞入院1週間以内のリハビリ強度 15.2（前年度16.3）
- ・脳血管疾患リハビリテーション 16,858単位（前年度16,780単位）

#### ウ 急性心筋梗塞への対応

24時間365日対応可能な急性心筋梗塞治療を、常にカテーテル治療学会専門医・認定医が行いました。

冠動脈カテーテル治療においてはIABP（※1）やPCPS（※2）の補助循環も使用可能であり、経皮的冠動脈形成術や冠動脈ステント留置術を実施して救命につなげるとともに、その後はICUで適切な管理を行いました。

また治療後は、心大血管疾患リハビリテーションを積極的に取り入れ、予後の改善に取り組みました。入院中だけでなく外来リハビリテーションを導入し、急性期治療と再発予防を目的とした取り組みを行いました。

- ・急性心筋梗塞急性期PCI実施患者死亡率 7.7%（前年度4.8%）
- ・冠動脈カテーテル治療 105件（前年度98件）
- ・心大血管疾患リハビリテーション 7,620単位（前年度7,968単位）
- ・カテーテルアブレーション 175件（前年度157件）

※1 IABP：大動脈内バルーンパンピング。心不全患者に対して行う補助循環の一つで、全身へ血液を送り出すポンプの役割をする心臓が心不全により機能しなくなった際に、大動脈内でバルーンを拡大・収縮

して血液循環を補助する方法。

- ※2 PCPS：経皮的心肺補助法。IABPと同じく補助循環法の一つ。心臓と肺の両方の機能を補助するもので、いわゆる人工心肺装置を用いる方法。

#### エ 糖尿病への対応

食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせたチーム医療による糖尿病の教育入院を実施しました。

また、糖尿病看護外来で行うフットケア外来および透析予防指導では、糖尿病性足病変患者および糖尿病性腎症患者へ対応しました。

また、新型コロナウイルス感染症対策のため糖尿病教室の開催は中止せざるを得ませんでした。その代替としてホームページに資料を掲載し、患者や市民の意識啓発に努めました。

- ・糖尿病教育入院 41件（前年度54件）
- ・糖尿病看護外来受診者数 206件（前年度150件）
  - 内訳 糖尿病フットケア外来受診者数 127件（前年度114件）
  - 透析予防指導管理件数 79件（前年度36件）
- ・糖尿病教室開催 0回（前年度0回）
  - ホームページへの資料掲載 6テーマ

#### オ 精神疾患への対応

これまで通り当院に求められる精神科医療の遂行に努めました。身体合併症を有する精神疾患患者に対しては、一般病床での治療管理が困難な場合には精神科病棟での受け入れをスムーズに行い、一般病床に入院した際には精神科リエゾンチームにより継続したケアを行いました。

令和3年度は基幹型認知症疾患医療センターが稼働し6年目となりましたが、自発的受診あるいは他院からの紹介患者は順調に増加しています。また、認知症患者が一般病床に入院した際は、精神科リエゾンチームと認知症ケアチームが随時対応しています。

地域への啓発活動としては「こころの教室」を企画・立案していますが、新型コロナウイルス感染症対策の一環にて、開催は出来ていない状況のため、教室資料をホームページに掲載し、情報発信しました。

- ・院内他科入院中の精神科診察依頼頻度 198.7%（前年度153.7%）

- ・精神科病院からの身体疾患受入頻度 4.0%（前年度2.9%）
- ・精神科リエゾンチーム加算算定件数 369件（前年度286件）
- ・認知症ケア加算算定件数 146件（前年度140件）
- ・統合失調症入院 68件（前年度61件）
- ・気分障害入院 53件（前年度71件）
- ・神経症圏新患 147件（前年度125件）
- ・児童思春期精神医療新患 17件（前年度8件）
- ・こころの教室開催 0回（前年度0回）  
     ホームページへの資料掲載 1テーマ
- ・認知症入院件数 495件（前年度572件）
- ・措置入院件数 3件（前年度1件）

## (2) 救急医療の提供

救急搬送患者は2,604件（前年度1,962件）、救急外来からの入院患者は2,228件（前年度1,850件）、また救急外来患者は13,715件（前年度10,361件）となり前年度に比べ軒並み増加し、秋田周辺医療圏の二次救急病院として地域の救急医療の一翼を担いました。

救急搬送の要請については、救急室の処置ベッドが満床だったなどの理由により、やむなく受入れに至らなかった事例もあり、救急搬送受入率は97.4%となりました。救急隊員などを含めたカンファレンスを定期的に開催して事後の検証を行うなど、受入体制の強化に努めました。

また、日本集中治療医学会専門医研修施設として、ICUで高度の集中治療を行いました。

- ・救急搬送患者受入件数 2,604件（前年度1,962件）
- ・救急搬送受入率 97.4%（前年度97.9%）
- ・ICU利用件数 1,481件（前年度1,537件）

## (3) 採算性は低いが公的医療機関として担うべき医療の提供

### ア 結核医療

採算性が低く民間医療機関では実施が困難な結核医療を引き続き提供しました。令和3年度の結核病棟入院患者は23人でした。

22人が紹介状を持参し、うち市外からの紹介患者も11人と広域的な医療に対応しました。



また、潜在性結核感染症患者については、0人（前年度5人）でした。

- ・病床利用率 27.1%（前年度30.3%）
- ・入院延患者数 2,178人（前年度2,434人）

#### イ 精神医療（(1)のオの再掲）

これまで通り当院に求められる精神科医療の遂行に努めました。身体合併症を有する精神疾患患者に対しては、一般病床での治療管理が困難な場合には精神科病棟での受け入れをスムーズに行い、一般病床に入院した際には精神科リエゾンチームにより継続したケアを行いました。

令和3年度は基幹型認知症疾患医療センターが稼働し6年目となりましたが、自発的受診あるいは他院からの紹介患者は順調に増加しています。また、認知症患者が一般病床に入院した際は、精神科リエゾンチームと認知症ケアチームが随時対応しています。

地域への啓発活動としては「こころの教室」を企画・立案していますが、新型コロナウイルス感染症対策の一環にて、開催は出来ていない状況のため、教室資料をホームページに掲載し、情報発信しました。

- ・院内他科入院中の精神科診察依頼頻度 198.7%（前年度153.7%）
- ・精神科病院からの身体疾患受入頻度 4.0%（前年度2.9%）
- ・精神科リエゾンチーム加算算定件数 369件（前年度286件）
- ・認知症ケア加算算定件数 146件（前年度140件）
- ・統合失調症入院 68件（前年度61件）
- ・気分障害入院 53件（前年度71件）
- ・神経症圏新患 147件（前年度125件）
- ・児童思春期精神医療新患 17件（前年度8件）
- ・こころの教室開催 0回（前年度0回）

ホームページへの資料掲載 1テーマ

- ・認知症入院件数 495件（前年度572件）
- ・措置入院件数 3件（前年度1件）

#### (4) 健診体制の充実

市民の疾病の予防や早期発見・早期治療のため、尿検査に塩分摂取量を含めるなど地域性を考慮し、かつ最新の検査項目設定に努め、人間ドック事業等を運営しました。

また、受診者の精密検査受診状況を追跡調査し、精密検査未受診者に対して、受診勧奨を行いました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により健診受診のキャンセルも少なくなく、受診者数は前年度並にとどまりました。

- ・ 特定健診受診者数 212件（前年度217件）
- ・ 特定保健指導件数 55件（前年度52件）
- ・ 人間ドック
  - 1日ドック 1,350件（前年度1,121件）
  - 2日ドック 567件（前年度484件）
- ・ 人間ドックオプション
  - 腫瘍マーカー検査 329件（前年度262件）
  - A B C 検査（※胃がんリスク検査） 136件（前年度90件）
  - 甲状腺超音波検査 153件（前年度116件）
  - 頸動脈超音波検査 190件（前年度175件）
- ・ 企業検診（※健診を含む） 446件（前年度497件）
- ・ 追跡調査 765件（前年度804件）

#### (5) 医療安全対策等の強化

##### ア 医療安全対策の強化

多職種からのインシデント・アクシデント報告の徹底に努め、毎月開催する医療安全対策委員会で分析を行い、改善案を立案して医療安全対策に取り組みました。令和3年度の全体のインシデント報告数は1,127件となりました。現場や個人の努力や気づきで、いかにうまく不具合や事故を回避できたかという「レベル0」の報告がまだ少ないため、今後はこのようなポジティブインシデントを積極的に報告してもらえよう取り組んでいきたいと考えています。

全職員に対する年2回研修の研修受講に関しては、感染症対策のため集合研修は限られた環境での開催となりましたが、感染予防を徹底し部門毎の研修を昨年より多く開催することができました。また、全職員対象医療安全研修については、昨年度と同様にeラーニングでの開催としました。受講期間を6ヶ月と長く設定し、1ヶ月毎に受講の促しを行うなど、職員が受講しやすいよう環境を整えました。さらに、未受講者に対し再受講期間を複数回設けて受講を促した結果、対象者849名（中途退職者、育休・産休者を除いた

もの) 全ての受講を確認でき、受講率は100%でした。

病院内での威嚇行為に対しては、警備員の24時間配置を継続し、院内暴力の抑止および院内暴力発生時の安全措置の強化を行い、患者・来院者・職員の安全確保に努めました。軽微なものが数件ありましたが、適切に対応することができています。

転倒転落に関しては、昨年同様に入院患者だけでなく外来患者の転倒が増加しました。高齢者や介護が必要と思われる患者の単独での外来受診なども要因の一つと考えられます。また、入院患者については、転倒転落後のリスクを減らすことを目標とし、センサー内蔵型ベッドの導入や緩衝マットの積極的な利用に取り組みました。その結果、昨年度より身体抑制を減少させつつ転倒転落レベル2以上の発生率を低下させることができました。

医療安全マニュアルの整備については、マニュアル内容を再構築し全面改定を行いました。医療安全は業務全体に関わるものであるという考え方を基に、従来の医療安全のカテゴリのみに関する内容だけでなく、医療従事者の遵守すべき内容も網羅し、医療安全に関連する他部門の全てのマニュアルにリンクできるように構築したことが大きな変更点です。

- ・インシデント報告数 1,127件 (前年度1,131件)
- ・医療安全研修職員受講率 100% (前年度99.9%)
- ・転倒転落レベル2以上発生率 0.077% (前年度0.102%)
- ・医療安全に関する教育・研修会開催数：講座数 2講座  
研修会延べ参加者：1,698人 (前年度1,786人)  
その他医療安全研修：9講座 (前年度2講座)  
研修会延べ開催回数：18回 (前年度6回)  
研修会延べ参加者：255人 (前年度106人)

#### イ 院内感染防止対策の強化

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、感染制御チームによる毎週実施している全病棟・ICUの環境ラウンドや2か月に1回の病棟以外の全部署の環境ラウンドを中止することもありましたが、実施した際にはその結果を各部署にフィードバックして改善を促しました。(全病棟・ICUのラウンド実施率：96.0%、病棟外のラウンド実施回数：年4回)

また、抗菌薬の適正使用と薬剤耐性菌対策を目的に、週2回の感染症例に

関する抗菌薬カンファレンスを実施し、主治医への診療支援を行いました。

全職員を対象とした感染防止対策研修については、昨年同様、e-ラーニングツールやWEBでの研修を計画し、受講率は1回目98.2%、2回目98.0%でしたが、受講しなかった職員には別途課題を設定し受講してもらい100%を達成しました。抗菌薬適正使用チームによる研修もe-ラーニングツールを使用し、抗菌薬に関わる職員を対象に2課題について受講してもらい、受講率は課題①が81.7%、課題②が83.7%でした。

感染対策の基本である手指衛生に関しては、全病棟・ICU・救急外来・手術室でアルコール製手指消毒剤の使用量調査を毎月実施し、1患者1日あたりの手指衛生実施回数を算出し、適切に手指衛生が実施されるよう取り組みました。令和2年度の新型コロナウイルス感染症の院内クラスター発生以降、病院全体で手指衛生の実施に取り組んだ結果、平均手指衛生実施回数は13.4回となり、前年度の9.3回から大幅に増加しました。

・感染対策研修職員受講率 100%（前年度100%）

#### (6) 女性と子どもに優しい病院づくり

##### ア 女性に優しい病院づくり

仕事などで日中は来院できない市民のために、秋田市の乳がん・子宮頸がん検診を夕方5時から実施する「夕暮れ乳がん・子宮頸がん検診」を継続しました。

また、乳腺・内分泌外科、産婦人科、小児科と連携した遺伝性疾患への対応として、診療記録や検査結果の保存管理に関する体制を継続しました。

さらに、令和元年度に開設した女性特有の泌尿器系疾患を対象とした女性泌尿器専門外来を継続しました。

・夕暮れ乳がん検診 83件（前年度140件）

・夕暮れ子宮頸がん検診 55件（前年度87件）

##### イ 小児医療体制の充実

新型コロナウイルス感染症の流行による受診控え、同ウイルス流行による人流抑制やマスク装着、手指衛生の徹底などにより、他の感染症が減少したため、小児科救急受診者数は減少傾向にありましたが、前年度より増加しました。また、近隣の小児科医等の地域医療機関の協力を得て、平日24時間と休日の日中および準夜帯（17:00～22:30）に小児科医が常駐する小児科救急

を維持することができました。さらに、小児科救急運営会議の定期開催を継続し、より円滑な運用に努めました。

子どもの心診療外来受診者数は減少しましたが、診療体制を維持しました。

小児科においては、一般外来、乳幼児健診および予防接種を行うとともに、引き続きアレルギー外来や子どもの心相談外来、発達外来などの専門外来を実施し、令和元年度に開設した、出生後の赤ちゃんやお母さんの子育てについてサポートする「母と子のための外来」、親ががんや難病などの時にどうかかわるかをサポートする「子ども達のためのサポート外来」、LGBTで性別に違和感があるなどの悩みを持つ患者を診察する「虹外来」を継続し、小児医療の提供に努めました。

- ・小児科救急受診者数 3,787人（前年度2,224人）
- ・小児食物アレルギー負荷検査 8件（前年度9件）
- ・子どもの心診療外来受診者数 439件（前年度493件）

#### ウ 産科医療の充実

新型コロナウイルス感染症の対策として、他病院と連携し、母子ともに安全な環境で分娩が行えるように調整しました。また合併症妊娠、切迫流産、妊娠高血圧症候群の管理を行うなど、正常分娩以外にも対応しました。

秋田県医師会が実施する「妊娠中からの子育て支援事業」に参加・協力するとともに、「秋田市版ネウボラ」と連携し、養育支援が必要と思われる妊産婦について、産後の育児に関する悩みや育児環境の改善に関して対応しました。さらに精神科疾患合併妊婦や産後うつなどに関して、当院精神科と連携し対応しました。

- ・分娩件数 102件（前年度128件）
- ・緊急母体搬送受入 1件（前年度0件）
- ・妊娠中からの子育て支援事業実績件数 9件（前年度10件）

#### エ 遺伝カウンセリング外来の運営

遺伝病又は遺伝子が関係する疾病や問題に関する遺伝カウンセリング外来を引き続き運営し、臨床遺伝専門医と臨床心理士が、相談者の遺伝に関する心配、病気への不安などについて一緒に取り組みました。

- ・遺伝カウンセリング外来 4件（前年度1件）

#### オ 病児保育施設の運営

病児保育施設の運営を継続し、市内の保育所、幼稚園および小児医療機関等へ周知を図り、利用登録数の増加に努めました。

- ・病児保育園「あすなろ」

定員 10名

開設日時 平日の7:00～18:00

登録者（年度末までの新規実人数）141人 累計1,715人（前年度128人  
累計1,574人）

利用者 575人（前年度315人）

#### (7) 高齢者に対する適切な医療の提供

いくつもの疾病を併せ持つ高齢者に対して、各診療科が緊密に連携して、総合的に対応するとともに、令和3年度も加齢性の眼疾患に対する手術を継続しました。

また、地域における専門的な診断や相談等を行う認知症疾患医療センターにて、認知症に関する各種相談や鑑別診断、専門医療を行うとともに、急性期治療後の医療や介護がスムーズに継続されるよう支援しました。

高齢のがん患者に対しては、内視鏡治療や鏡視下治療など低侵襲性治療を積極的に行いました。更に、運動器障害を有する高齢者に対しては、適切に傷病の治療を行うとともに早期に開始される急性期リハビリテーションや回復期リハビリテーションの充実を図り、高齢者の残存機能を引き出し、自立した生活への復帰を促しました。

また、新型コロナウイルス感染症対策のため、転倒予防教室等を開催することはできませんでしたが、教室資料をホームページに掲載し、予防医学的なりハビリテーション情報を発信しました。

- ・総合診療科受診者数 280人（前年度187人）
- ・加齢性眼疾患手術件数 330件（前年度262件）
- ・精神科身体合併症入院（精神科身体合併症管理加算対象者）60人（前年度42人）
- ・もの忘れ外来受診者数（新患）444人（前年度397人）
- ・内視鏡治療数 183件（前年度100件）
- ・鏡視下治療数 105件（前年度72件）
- ・運動器リハビリテーション 15,573単位（前年度15,382単位）

・転倒予防教室開催数 0クール（1クール4回）（前年度0クール（1クール4回））

・転倒予防教室参加者数 0人（前年度0人）

ホームページへの資料掲載 1テーマ

#### (8) 患者の視点に立った医療の実施

##### ア 患者やその家族の権利の尊重

患者や家族に対して治療方針や治療経過などを丁寧にわかりやすく説明し、納得の上で治療方法を選択できるよう、インフォームドコンセントの充実・徹底を図りました。

また、医療を自由に選択する患者の権利を守るため、当院の患者が主治医とは別の意見を求める場合には、必要な資料や画像等を貸出しするとともに、他の医療機関の患者に対しては、セカンドオピニオン外来により適切に対応しました。

・セカンドオピニオン

他院の患者が当院医師に意見を求めた件数 3件（前年度3件）

当院の患者が他院医師に意見を求めた件数 20件（前年度20件）

##### イ 患者サービスの向上

###### (ア) 患者待ち時間の短縮

地域医療機関と連携し、逆紹介を行うなどにより予約患者数を適正に維持するとともに、医師事務作業補助者を増員し代行入力等を継続することで医師の負担を軽減し、待ち時間の短縮に努めました。

また、患者の待ち時間調査を行い、医療機能・患者サービス向上委員会において待ち時間の苦痛軽減策についての検討を行うとともに、令和3年度も感染防止および待ち時間の短縮のために導入した外来完全予約制を継続しました。

・予約時間から診察開始時間までの平均待ち時間 32分（前年度35分）

・予約時間内を待ち時間0分と見た場合の平均待ち時間 17分（前年度14分）

※調査対象日：12月最初の月曜日～金曜日

###### (イ) 患者満足度調査の実施

患者満足度調査を実施し、医療機能・患者サービス向上委員会において

分析・検討を行い、各部門に周知して改善に結びました。

なお、調査結果については院内掲示およびホームページへの掲載を行いました。

- ・入院患者満足度（満足＋やや満足） 97.7%（前年度97.4%）
- ・外来患者満足度（満足＋やや満足） 94.0%（前年度94.0%）

#### (ウ) 入院前支援の実施

予定入院の患者に対し、令和3年度は1,224件（前年度1,106件）の支援を行うことができました。入院中の生活や治療スケジュール等がイメージできるような支援や、予測されるリスクアセスメントを実施し、安全安心を担保できるよう努めました。

また、切れ目のない支援のため退院前に院内外の多職種による共同カンファレンスを行い、退院共同指導や介護支援連携指導等を実施しました。令和3年度は289件（前年度413件）と、新型コロナウイルス感染症の影響により対面での件数は年々減少していますが、書面や電話等を活用して情報交換を行いました。

#### (エ) 接遇に関する研修の実施

職種に関わらず患者との接し方の認識を見直しすることで接遇レベルの向上を目指すとともに、職員間の節度を持った接し方での円滑な業務遂行を学ぶため、共通接遇マニュアルを用いた資料閲覧形式での研修を開催しました。

- ・接遇研修 1回（前年度1回）

#### (オ) 院内環境の整備

患者・来院者の利便性向上のために、東側歩行者通路をグリーン帯および誘導サインで視認しやすいよう整備したほか、秋田市竿燈会より借用した竿燈を外来ホールへ展示しました。院内の感染対策として引き続きサーマルカメラでの検温を実施したほか、手指消毒およびマスクの着用案内を強化しました。

外来ホール等の待合椅子の衛生環境強化のため殺菌消毒剤による清拭を実施しました。

また、院内に絵画・写真の展示を引き続き行いました。

#### (カ) 病院広報の充実



当院の医療および患者サービスに関する情報を患者、地域住民および医療関係者に広く発信するため、病院広報誌「ふきのとう」を2回発行しました。

また、ホームページでは病院案内や診療実績、厚生労働省から公表を求められている病院指標等の情報を随時更新したほか、病院改築に関する情報を掲載するなど、様々な情報の提供に努めました。

また、ホームページのリニューアルのため、院内WG等を開催し掲載内容の検討を行いました。

- ・ホームページアクセス数

年間 930,005件（前年度1,191,595件）

一日平均 2,548件（前年度3,265件）

- (キ) 院内行事の実施

新型コロナウイルス感染症対策のため音楽会ならびに病院祭の開催を中止しました。

- ・音楽会開催数 0回（前年度0回）

- ・病院祭開催数 0回（前年度0回）

- ・病院祭参加者数 0人（前年度0人）

## (9) 病床機能の検討

平成28年6月に開設した地域包括ケア病棟を引き続き運営し、急性期治療を経過した患者の在宅復帰に向けた支援を行いました。

また、秋田県が策定した、秋田県医療保健福祉計画を踏まえ、新病院の開院に向けた当院の病床機能について、感染症病床および緩和ケア病棟の検討を行いました。

## 2 医療に関する調査および研究

全国および院内がん登録については、671件を秋田県および国立がん研究センターへ提出しました。がん登録およびがん登録部会Q I（※）研究参加結果を医師等に周知するとともに改善を図り、引き続き、病院ホームページにて公表しました。

また、2014年診断症例の5大がんにおける5年相対生存率の調査を行い、予後判明率97.5%と国立がん研究センターの全国集計掲載基準の90.0%より高い水準を維持し、結果をホームページに掲載しました。

さらに、治験を継続して実施し、審査結果について、ホームページで公表しました。

- ・院内がん登録 671件（前年度1,164件）
- ・がん登録患者の予後調査 1,997件（前年度2,994件）
- ・倫理委員会 33件承認（前年度28件承認）
- ・治験審査委員会 36件承認（前年度21件承認）

※Q I : Quality Indicator（医療の質を客観的に評価するための指標）

### 3 人材の確保と育成

#### (1) 医療職の人材の確保

##### ア 医師

医師の確保について大学医局への働きかけを継続して行いました。

医学生向けサイト「秋田の医療情報、みてたんせ」に臨床研修に関する情報を発信しました。充実した研修プログラムや卒後臨床研修センターによる医学生等に対する講習会等や病院見学の実施により、令和3年度は9名の初期臨床研修医を確保しました。

- ・嘱託職員の正職員化 3名（前年度1名）

##### イ 看護師

新型コロナウイルス感染症の発生状況を見ながら、看護学校の病院実習の受け入れやインターンシップ、病院見学会を可能な範囲で行うとともに、就職説明会に参加し看護師の確保に努めました。

- ・20人募集21人採用（前年度19人募集19人採用）
- ・看護実習受入 117人（前年度119人）
- ・病院見学およびインターンシップ参加 15人（前年度10人）
- ・就職説明会参加回数 3回（前年度2回）
- ・採用試験実施回数 2回（前年度1回）

##### ウ 医療技術者

薬剤師2名、理学療法士3名、臨床工学技士1名、診療放射線技師2名など、医療技術者を増員しました。

また、医師事務作業補助者を確保し、医師の負担軽減を図りました。

- ・医師事務作業補助者 29人（前年度29人）※3月1日時点

#### (2) 人材育成

職員研修規程に基づき、保険診療や医療安全、院内感染等の研修を実施したほか、コロナ禍にあっても、専門知識の向上や新たな医療技術の習得のため、Z o o mでの学会や研修会等へ参加しました。

また、職務上必要な専門資格や認定資格の取得を支援しました。

・資格取得支援

認定看護師 1名（皮膚・排泄ケア）

サードレベル（※） 2名

※サードレベル：日本看護協会の認定資格制度における、認定看護管理者制度の教育課程レベルのひとつで、看護の理念の具現化に必要な組織化や運営に関する能力のほか、経営管理に関する知識・技術の習得により、高い管理実践力を発揮できる人材を育成する課程。

#### 4 地域医療への貢献

##### (1) 地域の医療機関などとの連携強化

「地域医療連携の会」は新型コロナウイルス感染症の対策のため、1回の開催でしたが、紹介事例を基に意見交換や日常診療に役立つミニレクチャーを実施しました。登録医療機関向けに開催している安全研修会・感染研修会は、診療所で受講することが義務化されているため開催の要望が大きいこともあり、WEB開催としました。各診療所で居ながらにして参加できるメリットがあり例年以上の参加数でした。特に感染研修はテーマが「診療所で気をつけたい新型コロナウイルス感染予防対策」で、現在求められている内容だったこともあり好評でした。

月報らしん盤（F A X版）は12回発行し、より多くの情報発信に努めました。内容は、新型コロナウイルス関連が多く、連携に関する情報発信を致しました。

各医療機関への訪問は、新型コロナウイルス感染防止の観点で中止としたため、直接診療所の先生方と顔の見える連携は出来ませんでした。しかし、患者の紹介や発熱外来の問い合わせ等々、例年以上に電話の問い合わせが多く、対話による連携に努めました。

介護施設などの地域の関連機関との連携を目的とした交流会も令和3年度はWEB開催することができました。

地域連携パスは、脳卒中パスを12件（前年度8件）、大腿骨頸部骨折パスを19件（前年度23件）稼動させました。年3回の協議会を実施し、意見交換する

ことで患者にとって急性期から回復期そして維持期へと治療過程が見え、より専門性の高い継続的な療養が可能となっております。

病床の一部を地域医療機関に開放しており、眼科手術282件（前年度107件）の利用がありました。

また、あきたハートフルネットの利用件数は58件（前年度54件）で、ICTを活用した地域医療の連携により、効率的で質の高い医療の提供を継続しました。

- ・紹介率（地域医療支援病院） 35.4%（前年度33.6%）
- ・逆紹介率（地域医療支援病院） 88.8%（前年度75.1%）
- ・病床利用率 67.3%（前年度64.4%）
- ・在宅復帰率 96.7%（前年度98.0%）

## (2) 教育研修の推進

### ア 研修医の育成

臨床研修指定病院として、初期臨床研修医9人を受入れたほか、他院から医学研修の受入れも行いました。

### イ 実習生の受入れ

将来の医療従事者を目指す県内外の実習生の受入れを行いました。

- ・医学生 75人（前年度87人）
- ・看護学生 117人（前年度119人）
- ・その他実習生 23人（前年度9人）
- ・救急隊等 8人（前年度4人）
- ・社会福祉士 0人（前年度0人）

### ウ 専門医などの育成

各種学会が認定する専門医の研修施設として専門医の育成に努めるとともに、下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施施設に認定されました。

- ・専門医等の研修施設認定 40件（前年度41件）

## (3) 市民への保健医療情報の提供・発信

新型コロナウイルス感染症対策のため、院内教室や健康講座および出前講座の開催は中止となりましたが、ホームページに教室資料を掲載し情報の発信は継続しました。また、病院広報誌「ふきのとう」の発行および病院ホー

ホームページのコラム「健康万歩計」により、医療や健康に関する情報の発信および普及啓発に努めました。また、地域や公的機関が主催する研修会等へ職員を派遣したほか、感染症対策の指導などに専門職員を派遣し、市民の感染症対策に寄与しました。

- ・院内教室等実施回数 0回（前年度0回）
- ・出前講座等実施回数 0回（前年度0回）
- ・講師派遣回数 55回（前年度36回）
- ・ホームページへの資料掲載 8教室21テーマ

## 5 災害時の体制強化

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、各種訓練、研修会等が縮小開催、または中止となり、今年度の参加はありませんでしたが、秋田県コロナ医療支援チーム（ACOMAT）としての活動を積極的に行いました。

また、災害用テントを導入しました。

- ・DMAT出動 0件（前年度1件）
- ・ACOMAT（秋田県コロナ医療支援チーム）の派遣 7件
- ・新型コロナウイルス感染症対策本部への派遣 延べ24名
- ・東北ブロック自治体病院協議会 オンラインでの参加

## 第2 業務運営の改善および効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

### 1 経営企画・分析力の向上

経営分析システムの原価計算機能により経営戦略的な業績分析を行うため、経費などの詳細なデータの入力を行い、収入調整会議にて、経営層と各診療科で検討を行いました。

また、令和3年度においても職務経験者採用を行い、社会人としての知識や経験が豊富な人材を確保しました。

### 2 外部評価

公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価において更なる改善を期待するとされた事項を中心に、医療機能・患者サービス向上委員会の小委員会である病院機能評価受審準備小委員会にて、対策の方向性を決定し、病棟や部門の訪問点検などを行い、令和3年12月に認定更新できました。

また、医療の質の評価・公表等推進事業に引き続き参加し、当院の臨床指標を他病院と比較しながら、更なる指標数値の向上に向けた検討を行うとともに、当

院のホームページにて当該指標を公開して透明性の確保を図りました。

### 3 効率的な診療体制の構築

電子カルテシステムの安定した運用により、引き続き患者情報の共有化と医療提供の効率化を推進しました。

また、クリニカルパス委員会にて医療の安全性の向上と標準化を図るため、随時バリエーション分析を行い、質の改善に努めました。

- ・クリニカルパス使用率（患者数） 54.9%（前年度49.2%）
- ・クリニカルパス使用率（日数） 24.5%（前年度20.0%）

### 4 経費の節減

診療材料費については、令和3年10月からNHA（※）の共同購入へ参加し、5ヶ月間の材料費削減効果額が6,187千円となりました。また、材料の見直しを行い材料の切り替えや統一により経費の削減に努めました。医薬品は可能な限り後発医薬品に切り替えて経費の節減を図りました。

消耗品、光熱水費等の経費の節減に向けた取り組みとして、照明スイッチへの「不要時off」シールを貼付するなど、職員の節電への意識向上等に努めました。

- ・医業収益に対する診療材料費割合（税抜き） 12.8%（前年度11.7%）
- ・医業収益に対する薬品費割合（税抜き） 16.2%（前年度15.4%）
- ・後発医薬品使用率（数量ベース） 92.8%（前年度93.4%）

※NHA：一般社団法人 日本ホスピタルアライアンス（略称NHA）

共同購入を目的とした病院自治運営団体

### 5 収入の確保

#### (1) 診療報酬請求事務の体制強化

診療報酬請求事務を行っている委託業者への指導を強化するとともに、毎月、査定・返戻への対策会議を開催し、診療報酬の査定額の減少に努めました。

また、医事課DPC係にて、入院医療費の適正な請求を行うよう努めたほか、指導料、管理料のカルテ記載チェックを行うなど確実な算定に努めました。

さらに令和4年度の診療報酬改定に伴い、届出が必要な書類については、迅速かつ適切に対応しました。

- ・DPC症例検討会 4回（前年度4回）

#### (2) 未収金対策の強化

入院時の概算費用の提示や高額療養費制度等について説明を徹底したほか、クレジットカード決済を継続し、未収金の発生防止に努めました。

未収金が発生した患者に対しては、医療相談室および各科外来と連携を密に図り、積極的に納入相談を実施したほか、必要に応じて督促等を行いました。

また、督促等に応じない回収が困難な債権の回収業務を弁護士事務所に委託し、未収金の回収に努めました。

- ・ 個人分徴収率（現年度分） 99.1%（前年度98.8%）

（注）令和4年5月末日時点

### (3) 急性期一般入院料とDPCへの的確な対応

令和2年度診療報酬改定に伴い7対1入院基本料に相当する急性期一般入院料1の要件である看護体制および重症度、医療・看護必要度の割合を満たし、収入を確保しました。

令和3年度のDPC医療機関別係数についても1.4400と前年度より増加しました。

- ・ DPC医療機関別係数 1.4400（前年度 1.4294）

うち機能評価係数Ⅱ 0.09654（前年度 0.09654）

### (4) 医業外収入の確保

新型コロナウイルス感染症の影響等により、飲料用自動販売機固定資産貸付収入は契約更新においてさらなる減収となりましたが、引き続き売店、自動販売機に関する固定資産の貸付けにより、資産の有効活用を図りました。

また、新病院での新たな収入確保のための検討を行いました。

- ・ 固定資産貸付収入（売店・自販機） 2,972千円（前年度5,179千円）

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画および資金計画

1 予算（令和3年度）

（単位：百万円）

区 分	予算額	決算額	差額
収入			
営業収益	11,358	11,528	170
医業収益	10,474	9,988	△486
運営費負担金等	836	1,148	312
補助金等	48	392	344
営業外収益	94	104	10
運営費負担金等	13	12	△1
補助金等	0	0	0
その他	81	92	11
資本収入	8,272	9,939	1,667
運営費負担金等	168	168	0
長期借入金	8,104	5,186	△2,918
その他	0	4,585	4,585
計	19,724	21,571	1,847
支出			
営業費用	11,185	11,231	46
医業費用	10,680	10,812	132
給与費	5,979	5,992	13
材料費	2,755	3,037	282
経費	1,903	1,763	△140
研究研修費	43	20	△23
一般管理費	505	419	△86
営業外費用	55	49	△6
資本支出	8,417	9,631	1,214
建設改良費	8,173	4,887	△3,286
償還金	244	4,744	4,500
計	19,657	20,911	1,254



2 収支計画（令和3年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額	決算額	差額
収益の部	11,608	11,880	272
営業収益	11,519	11,737	218
医業収益	10,451	9,970	△481
運営費負担金等収益	836	1,148	312
補助金等	232	619	387
営業外収益	89	98	9
運営費負担金等収益	13	12	△1
補助金等収益	19	19	0
その他営業外収益	57	67	10
臨時利益	0	45	45
費用の部	11,896	11,940	44
営業費用	11,314	11,428	114
医業費用	10,819	11,017	198
給与費	6,054	5,987	△67
材料費	2,505	2,907	402
経費	1,738	1,619	△119
減価償却費	480	482	2
資産減耗費	3	3	0
研究研修費	39	19	△20
一般管理費	495	411	△84
営業外費用	567	505	△62
臨時損失	15	7	△8
純利益	△288	△60	228

### 3 資金計画（令和3年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額	決算額	差額
資金収入	24,491	24,665	174
業務活動による収入	11,452	11,158	△294
診療業務による収入	10,474	9,385	△1,089
運営費負担金等による収入	849	1,160	311
その他の業務活動による収入	129	613	484
投資活動による収入	168	422	254
運営費負担金による収入	168	168	0
その他の投資活動による収入	0	254	254
財務活動による収入	8,104	9,686	1,582
長期借入による収入	8,104	5,186	△2,918
短期借入による収入	0	4,500	4,500
前期年度計画からの繰越金	4,767	3,399	△1,368
資金支出	19,657	21,479	1,822
業務活動による支出	11,240	11,348	108
給与費支出	6,339	6,246	△93
材料費支出	2,755	3,165	410
その他の業務活動による支出	2,146	1,937	△209
投資活動による支出	8,173	5,375	△2,798
有形固定資産の取得による支出	8,173	5,375	△2,798
有価証券の取得による支出	0	0	0
財務活動による支出	244	4,756	4,512
長期借入金の返済による支出	107	137	30
移行前地方債償還債務の償還による支出	137	107	△30
リース債務の返済による支出	0	12	12
短期借入金の償還による支出	0	4,500	4,500
次期年度計画への繰越金	4,834	3,186	△1,648

#### 第4 短期借入金の限度額

令和3年度は限度額8,000百万円のうち、新病院の建設工事に係る一時的な資金不足への対応として、4,500百万円の借入を行い、年度内に返済しております。

#### 第5 出資等に係る不要財産等の処分に関する計画

なし

#### 第6 その他の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

#### 第7 剰余金の使途

令和3年度は当期総損失60,298,810円を生じたため、損失処理として、前中期目標期間繰越積立金を取崩し充てることとしました。

#### 第8 その他業務運営に関する重要事項

##### 1 法令・行動規範の遵守

医療法をはじめとする各種関係法令を遵守のうえ、倫理的な問題を含むと考えられる医療行為については、倫理委員会又は治験審査委員会において検討し承認を受けた上で実施しました。

また、患者の個人情報の保護および患者や家族からの情報開示請求については、秋田市個人情報保護条例に基づき適切に対応しました。

- ・コンプライアンス研修 1回（前年度1回）
- ・倫理委員会 33件承認（前年度28件承認）
- ・治験審査委員会 36件承認（前年度21件承認）

##### 情報開示

- ・個人情報開示 5件（前年度7件）
- ・情報公開 6件（前年度2件）

##### 2 内部統制の推進

内部統制については、経営企画室にて外部アドバイザーの支援を受けながら、業務の有効性・効率性、財務報告の信頼性に視点を置いた内部監査を行い、労務規定や時間外管理などの指摘事項について見直しを行いました。

また、情報セキュリティについては、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第5版」に沿って作成した「市立秋田総合病院総合医療情報システム運用管理要綱」に基づき、利用者の権限管理やシステムの定期的な監視に努めました。

### 3 新たな人事制度の運用と就労環境の整備

#### (1) 新たな人事制度の運用

評価者の意見や評価結果から、適正な評価を行うことができるよう事務職の評価項目を一部改定しました。併せて評価者研修を行うことで、評価者の評価スキルの向上を図りました。

#### (2) 就労環境の整備

ア 看護師については、安全で質の高い看護を提供しつつ、職員にとって働きやすい勤務形態である正循環（※1）による勤務シフトに準じた変則二交代制（※2）勤務を継続して導入しています。

医師の働き方改革については、委員会を3回開催し時間外勤務、研鑽についての定義を職員に周知しました。

また、福利厚生制度については、新規職員への採用時研修での説明、職員専用サイトでの周知を行いました。

※1 正循環：「日勤」、「準夜勤」、「深夜勤」の3交代制の現場で、日勤が続いた後は準夜勤、その次は深夜勤と、開始時間が日を追うごとに後ろ倒しになるようなシフトの組み方。

※2 変則二交代制：通常二交代制の夜勤は16時間勤務であるが、変則勤務は13時間勤務となり、勤務時間が短くなる。また、日勤は通常の8時間勤務と11時間勤務の2種類あり、これらを組み合わせて1ヶ月の勤務時間を調整する。

イ 引き続き院内保育園を運営して、職員の育児支援を行いました。

・院内保育園「こどもの国」

定員 20名

開設日 年中無休

保育時間 7:00～18:00（延長保育21:00）、週3日24時間保育実施

令和3年度利用者（基本保育） 平均6.5名（前年度12.3名）

令和3年度利用者（一時保育） 平均5.2名（前年度3.2名）

ウ 職員のメンタルヘルス相談体制について、職員専用サイトでの周知を引き続き実施しました。

また、法で年1回の実施が義務づけられているストレスチェックを実施し、職員のメンタルヘルス不調の未然防止を図りました。

#### 4 病院の改築と医療機能の拡充

新病院建設工事について、工程表の確認等により進捗管理を行い、計画的に工事を進めたほか、総合定例会や現場パトロール等により、随時、安全管理に努めました。

また、進捗状況について、「工事かわら版」を毎月発行したほか、病院広報誌、ホームページ等で、随時、市民へ情報を発信しました。

#### 5 秋田県地域医療構想を踏まえた当院の果たすべき役割

当院が果たすべき、緊急・重症な状態にある患者に対して急性期医療を24時間提供するとともに、結核・精神・救急などの政策的な医療も総合的に提供する地域の中核的な公的医療機関としての役割を継続しました。

また、令和4年10月に開院予定の新病院では、感染症病床を有することとしており、更なる医療機能の強化に努めることとしています。

さらに、秋田県地域医療構想における不整脈治療を拡充（クライオアブレーションの導入）するとともに、調整会議へ引き続き積極的に参加し、医療提供体制の再編・ネットワーク化について検討を行いました。

### 第9 その他市の規則で定める業務運営に関する事項

#### 1 施設および設備に関する計画（令和3年度）

（単位：百万円）

施設および設備の内容	決定額	財源
病院施設および医療機器等整備	153	秋田市からの長期借入金等
病院改築事業	5,033	秋田市からの長期借入金等

# 監査報告書

令和4年6月23日

地方独立行政法人市立秋田総合病院  
理事長 伊藤 誠 司 殿

地方独立行政法人市立秋田総合病院

監事

田中伸一 

監事

坂井照重 

私ども監事は、地方独立行政法人法第13条第4項の規定に基づき、地方独立行政法人市立秋田総合病院の令和3年4月1日から令和4年3月31日までの第8期事業年度の業務の執行について監査を実施いたしました。その結果について、以下のとおり報告いたします。

## 1 監査の方法の概要

私ども監事は理事会に出席するほか、理事長等から業務運営の報告と業務処理の状況を聴取するとともに、書面・証憑書類の査閲によりこれを確かめました。

なお、財務諸表、事業報告書及び決算報告書について検討を加えました。

また、理事長及び副理事長と当法人との利益相反取引については、理事長・副理事長から報告を求めるとともに、その有無を調査しました。

## 2 監査の結果

- (1) 財務諸表（利益の処分に関する書類を除く）は、財政状態、運営状況、キャッシュ・フローの状況及び行政サービス実施コストの状況を適正に示していると認めます。
- (2) 利益の処分に関する書類は、法令に適合しているものと認めます。
- (3) 附属明細書は、記載すべき事項を正しく示しており、指摘すべき事項は認められません。
- (4) 事業報告書は、業務運営の状況を正しく示していると認めます。
- (5) 決算報告書は、予算区分に従って決算の状況を正しく示していると認めます。
- (6) 内部統制システムの整備および運用の状況について、指摘すべき事項は認められません。
- (7) 理事長、副理事長及び理事の業務執行に関し、不正の行為又は法令等に違反する重大な事実はありません。なお、理事長・副理事長と法人間の利益相反取引は認められません。

以上